

薬事委員会記録

日 時：平成 28 年 9 月 1 日(木) 16 時 00 分
場 所：医学部 1 階 小会議室
出席者：伊藤、西垣、諏訪、吉倉、山内、山口、早崎、江頭、安田(満)、山本、田中(秀)、田辺、
白上、北川、吉田、村上、大野、玉井、山口、安田(浩)、鈴木、名和
代理出席者：北川〔1内科〕
委任状提出：田中(領)、加納、畠山、加藤、久保田、荒木、小森
欠席者：村瀬、川瀬、西堀、市川、長瀬、紀ノ定、堀川、折居、酒々井

記録の承認

平成 28 年 6 月 2 日開催の薬事委員会の記録を承認した。

協議事項

1. 医薬品の採用について

8 品目（献血ヴェノグロブリン IH5% 静注 5g/100mL、ハラヴェン静注 1mg、リュープロレリン酢酸塩注射用キット 1.88mg「あすか」、注射用レザフィリン 100mg、ジオクチルソジウムスルホサクシネート耳下用液 5%「CEO」、リュープリン PRO 注射用キット 22.5mg、ワントラム錠 100mg、ピコスルファート Na 錠 2.5mg「サワイ」）の採用を承認した。

2. 医薬品の継続試用について

4 品目（アシテアダニ舌下錠 100 単位、メプチン吸入液ユニット 0.5mL 0.01%、アレルゲンスクラッチエキス陽性対照液「トリイ」ヒスタミン二塩酸塩、アコアラン静注用 600）の継続試用を承認した。

3. 医薬品の新規試用について

8 品目（スーグラ錠 25mg、フィコンパ錠 2mg・同 4mg、生食シリンジ 20mL「NP」・同 50mL「ニプロ」、コロンフォート内用懸濁液 25%、カリーユニ点眼液 0.005%、オゼックス細粒小児用 15%）について、申請診療科および薬剤部より説明された後、新規試用の承認可否について投票を実施した。その結果、原案通り全て承認した。

4. 医薬品の採用中止について

8 品目（ケイツーカプセル 5mg、コペガス錠 200mg、ザイティガ錠 250mg、レベトールカプセル 200mg、アリクストラ皮下注 7.5mg、エポジン注シリンジ 3000 国際単位 0.5mL、パシル点滴静注液 500mg、ラモセトロン塩酸塩注射液 0.3mg「EMEC」）の採用中止を承認した。

報告事項

1. 院外採用医薬品に関する薬事委員会 WG での決定事項

①医薬品の院外採用について

14 品目（エクリラ 400 μ g ジェヌエア 60 吸入用、インスリングラルギン BS 注キット「FFP」、ノルバデックス錠 20mg、ルテウム膣用坐剤 400mg、ボンビバ錠 100mg、マーデュオックス軟膏、ヴォトリエント錠 200mg、シクレスト舌下錠 5mg・同 10mg、ストラテラカプセル 40mg、アディノベイト静注用 2000 単位、ボノサップパック 400・同 800、ボノピオンパック）の院外採用を報告した。

②医薬品の採用中止について

11 品目（オークル錠 100mg、オーラップ細粒 1%、ドグマチール錠 200mg、ノルバデックス錠 10mg、ベゲタミン-A 配合錠、メタルカプターゼカプセル 100mg、ランサップ 400・同 800、ランピオンパック、ボンアルファローション 2 μ g/g、フルタイド 200 ディスカス）

の院外採用中止を報告した。

2. 製剤変更医薬品について

3 品目（クレストール OD 錠 2.5mg・同 5mg、ビカルタミド OD 錠 80mg「NK」）の製剤変更を報告した。

3. 採用変更医薬品について

1 品目（ブチルスコポラミン臭化物注 20mg シリンジ「NP」）の採用変更を報告した。

4. 基礎的医薬品指定に伴う採用変更医薬品について

基礎的医薬品指定に伴い、2 品目（ペントシリン注射用 1g・同 2g）の採用変更を報告した。

5. 販売中止医薬品について

4 品目（パンスポリン T 錠 200、ベナ錠 10mg、テルシガンエロゾル 100 μ g、ヒューマログ N 注ミリオペン）の製剤販売中止を報告した。

6. 緊急購入医薬品の登録について

8 品目（イムブルビカカプセル 140mg、ツムラ越婢加朮湯エキス顆粒、オペプリムカプセル 500mg、ネオール内用液 10%、パキシル錠 10mg、プラケニル錠 200mg、インフリキシマブ BS 点滴静注用 100mg「NK」、コージネイト FS バイオセット注 2000 国際単位）の緊急購入の登録を報告した。

7. 臨時採用ワクチンについて

熊本震災の影響によりシリンジ製剤の供給が中止となるため、1 品目（インフルエンザ HA ワクチン「生研」）の臨時採用を報告した。

後発品への切り替えについて

医薬品費適正化 WG において、岐阜大学病院は現状では後発品使用率が 60%程度であるが、DPC における後発品指数は国立大学病院の中で下位から 4 番目であることから、平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月の使用率目標を 80%とするとの目標が立てられたことを報告した。

目標達成のため、①剤形や規格が同じ後発品が採用されている薬品(16 品目)、②オーソライズドジェネリックが発売されている薬品(1 品目)、③使用量が多く国立大学病院での採用率が高い薬品(43 品目)、の計 60 品目について後発品への切替案を提示した。提示した 60 品目のうち、診療科から切替除外要望のあった 6 品目について医薬品費適正化 WG へ意見を求めたが、既に科長会議で決定された事項は変更できないとの WG の意向に基づき、原案通り全 60 品目の後発切替を実施することとなった。そのため、必要時は緊急購入で対応することとした。

その他

1. 医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいた業務実施状況について

医薬品安全使用に関する業務手順書に基づいた業務実施状況を平成 28 年 6 月に評価したところ、C 評価の項目はなかったとの報告がされた。

2. 緊急購入薬品連絡書の運用について

薬事委員会で承認済の緊急購入薬品を使用する場合、採用中止となった医薬品または後発品へ切替となった先発品を処方する必要が発生した場合の申請を簡素化するため、緊急購入薬品連絡書の運用を開始することを報告した。連絡書の記載内容に一部意見が出たため、改訂案を提示した上で承認を得た。

次回薬事委員会の開催日時は、平成 28 年 12 月 1 日(木)とした。